

「いろいろな建築物を描く」

How to draw buildings – An architectural perspective

青山咲花 岡部さな 片山海愛 佐野凜音 古屋泰知
山口征杜 山崎愛心 渡邊爽 渡邊大 渡辺波琉

私たちは、一人ひとりが興味関心がある建築物を題材に透視図の作成を行った。立体的な表現をする為に各題材に対して消点透視法の研究を行うと共に、各部のディテールや納まりについても詳細に調べた。また、透視図の作成を行う中で、題材にした建築物に関する知識の学習を行い知見を深めた。

1. はじめに

現代では3次元立体の作図するソフトの普及により、簡単に透視図を描くことができるようになっている。本研究では、透視図を手書きによる作図と多分野かつ広域で普及している2次元の作図をすることができるJwcadを用いて作成していく。そのことは、透視図の方法等の知識・技能の習得ができるだけでなく、3次元ソフトに頼らずに自らで作図する力が身につく。また、Jwcadを用いて透視図を作図することは新たな使い方を示す上でも有意性がある。

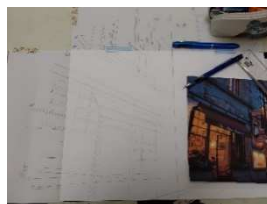
2. 研究内容

描きたい建築物の画像を図書館やインターネットを活用し入手する。その画像の消点を1消点図法や2消点図法を駆使して割り出しを行う。下書きを行う際に画像の倍率を使用する用紙のサイズに合わせた。また元の画像だけでは確認できない箇所はさらに詳しく調べ描き足しを行った。下書き完了後、着色の研究を行った。各自着色を行う。資料を何度も確認し、絵の具や色鉛筆、エアブラシ等の器具を用いて、着色を行った。Jwcadの作図においてはcad上にて着色を行った。

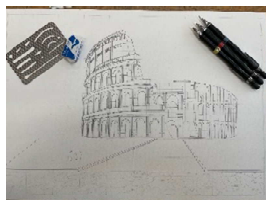
3. 取組状況



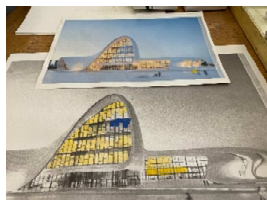
1. 研究対象の決定



2. 分析



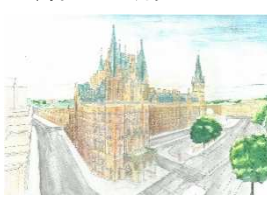
3. 下書き



4. 着色の研究

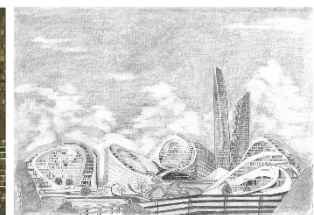


5. 下書きのコピーへの着色 6. 着色仕上げ



4. 成果

授業内で学んだ透視図法より深く研究したことで実践的な内容が学ぶことができた。また、透視図を描くことにより建築物の細部に至るまでよく観察し表現することができた。Jwcadを用いた作品はcad上により着色を行ったため手書きのような色の濃淡の表現に限界があったが本研究でJwcadを用いて透視図の作図が可能であることを示した。



5. 考察

透視図はこれからも必要不可欠な技術であると考え。透視図を描くことにより依頼者へデザインの内容が伝わり、完成後のイメージの相違が少なくなると考える。依頼者の意思に沿った設計提案をスムーズに行うことでより良い建築物を建てることの足がかりになる。現代ではコンピューター上で簡単にできてしまう透視図だが、初心に戻り、手書きという方法も忘れてはいけないと思う。また、Jwcadを用いて透視図の作図が行えたことで新たな使い方として実証できた。

6. おわりに

本研究で扱わなかった透視図の中にもいろいろな作図法や着色法があるので今回の研究知識を生かし、今後で活かし、つなげていきたい。